

講義名	産業経済論			授業形態	
担当教員	中島 孝子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

本科目では、市場における供給者である企業の行動に注目し、企業、産業、消費者および政府の政策・規制の効果について学ぶ。経済学のテキストにおける市場とは異なり、現実の市場では、供給者である企業数はそれほど多くない。企業は価格受容者であるとは限らず、価格に影響を与えることがある。また、企業は他の企業と協調しようとすることもあるし、マーケットシェアをめぐって熾烈な競争をすることもある。

本科目では、ある産業・企業の経済活動について、および政府による規制や競争政策について、理解し考察することを目的とする。

到達目標

- (1) 企業、産業、消費者および政府の政策・規制の効果をもとに経済学的に分析するための基本的な概念や分析道具を習得する。その学修によって、学生は現代社会を構成する基本的主体である企業、産業、消費者および政府の政策・規制の相互連関の基本的な仕組みを理解できるようになる。
- (2) 社会で観察される経済現象は企業、産業、消費者の経済的意思決定および政府の政策・規制の相互作用の産物としてはじめて総合的に解釈できる。この講義では実例を提示してそのような社会の問題のケーススタディを行う。その学修によって、学生は産業経済社会のさまざまな課題を概念的に整理された形で理解することができる。
- (3) 産業経済論の学びを通じ、企業、産業、消費者および政府の政策・規制の相互連関について経済学的な見方を習得することで、学生は人生のさまざまな場面で思慮深い行動を取ることが可能になる。それは例えば日常の購買行動の場面、就活の場面、資産運用の場面、社会人として社内で企画・提案をする場面で有権者として投票する場面で、である。

提出課題

提出課題として小テスト等を課します。詳細は授業中に指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題提出後、原則として登壇以降に解説や講評を行います。

評価の基準

成績は100点満点で評価し60点以上を合格とします。配分は平常点30%、定期試験70%です。昨年は履修登録者の97%が最終課題（定期試験にかわる課題）を提出し、その93%が合格しました。

定期試験にかえて課題（最終課題）を課することがあります。詳細は授業時に指示、または講義連絡等で通知します。

履修にあたっての注意・助言他

経済学の基礎的な科目（経済学入門やミクロ経済学など）を修得していることが望ましい。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

必要に応じて資料を配布します。
 以下は、本科目の履修において有用な文献です。
 泉田成美・柳川隆「プラクティカル産業組織論」有斐閣 2008年
 花園誠「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣 2016年
 小田切宏之「産業組織論・理論・戦略・政策を学ぶ」有斐閣 2019年
 伊藤元重「ビジネスエコノミクス第2版」日本経済新聞出版 2021年

授業計画

- 01 産業経済論とは/利潤最大化と独占1 市場環境
- 02 利潤最大化と独占2 独占価格形成
- 03 独占企業の価格設定1 価格差別
- 04 独占企業の価格設定2 市場分離
- 05 垂直的な統合と制限1 垂直的企業関係
- 06 垂直的な統合と制限2 価格のゆがみ
- 07 寡占市場の理論1 独占と寡占
- 08 寡占市場の理論2 寡占市場における競争
- 09 競争政策
- 10 製品差別化1 独占的競争
- 11 製品差別化1 差別化の要因
- 12 カルテル1 非効率性
- 13 カルテル2 規制
- 14 市場支配力、集中度と市場測定1 市場支配力と集中度
- 15 市場支配力、集中度と市場測定2 市場測定

順番など、授業計画の一部が変更されることがあります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回の授業後、以下のことをおこなってください。
- (1) 資料などを用いて復習をする。
 - (2) 政府や企業の活動、市場の動向などに関心を持ち、メディア（新聞、ビジネス雑誌、テレビ番組、インターネット等）を通じて情報収集する。
- *1回の授業で3～4時間が目安です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・到達目標（1）を達成することで、これまでの学問的成果の基礎を身につけることができる。到達目標（2）（3）を達成することで産業経済社会の諸問題を経済学的に理解し、課題を発見して経済学的に考察し、場合によっては課題を周囲の人に提案することができるようになる。
- ・到達目標（1）を達成することで、産業経済社会の動きを理解できるようになる。到達目標（2）（3）を達成することで産業経済社会の諸問題を経済学的に理解し、自分なりのさまざまな、より思慮深い行動を取ることができるようになる。場合によっては課題と解決策を周囲の人に提案できるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中のアンケートや、小テスト、課題の提出などにレスポンスを使用します。

実務経験の有無及び活用

備考